

平成29年度第2回仙台市食育推進会議 議事録

開催日時	平成29年10月26日(木) 15時00分～
開催場所	仙台市役所本庁舎2階 第一委員会室
出席者	
委員 (順不同・ 敬称略)	小島芳 亀山季代子 熊谷和裕(会長職務代理者) 齋藤浩美 柴崎浩一 高澤まき子(会長) 渡辺淳子 佐々木洋 福田洋之 石川浩史 大越裕光 (欠席委員:相澤かず子 青沼清一 蘆澤義章 白川愛子 菅原哲平 中野俊昭 原田美和 平間正浩 南文子)
事務局	市民局 消費生活センター所長  健康福祉局 保健衛生部長 健康政策課長 生活衛生課長  子供未来局 子供保健福祉課長 運営支援課長  環境局 廃棄物企画課長  経済局 農食ビジネス推進室長(代理出席) 中央卸売市場業務課長  太白区保健福祉センター 衛生課長  泉区保健福祉センター 家庭健康課長  教育局 健康教育課給食運営係長(代理出席) 生涯学習課長
次第	1 開会 2 議事 (1) 仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画中間案について (2) その他 3 閉会

発言者等	
<開会> 進行	<p>それでは定刻前ではございますが、開会にあたりまして、資料の確認を先にさせていただければと存じます。本日使用します会議が資料1から3までとなっております。資料1が仙台市食育推進計画第2期後期計画の中間案。資料2が後期計画中間案の概要版となります。資料3が皆様からご意見いただきました意見シートを集約したものになってございます。そのほか、本日机の上に「モットイナイキッチン」ということで、PRのチラシと小さいカードを置かせていただいております。資料1から3、今日お忘れの方いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>それでは定刻になりましたので、只今より平成29年度第2回仙台市食育推進会議を開催いたします。はじめに本会議を代表いたしまして、高澤会長よりご挨拶を頂戴したいと存じます。お願いいたします。</p>
<挨拶> 高澤会長	<p>皆様、こんにちは。秋も深まってまいりまして、食べ物もおいしい季節となりました。本日はお忙しい中ご参加賜りまして、誠にありがとうございます。後期計画中間案に対しまして、委員の皆様からたくさんご意見を頂戴したと伺っております。いかに真剣に考え、取り組んでいらっしゃるかということを感じさせていただきました。</p> <p>皆さんの手元には、さまざまな意見が反映されましたものが配られているかと思えます。今回はこの中間案に対しまして、さらに意見を賜りたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。ここで議事に先立ちまして、本日の会議の成立についてお知らせいたします。本日は相澤委員、青沼委員、蘆澤委員、白川委員、菅原委員、高野委員、原田委員、平間委員、南委員から欠席の連絡をいただいております。現在11名の委員に出席いただいております。過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、本会議は成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>また本日出席の市職員出席者名簿につきましては、名簿を机にお渡ししておりますので、ご確認いただければと思います。それではこれからの進行につきましては、会長にお願いしたいと存じます。高澤会長、よろしくお願いいたします。</p>
高澤会長	<p>はい、委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。議題に移ります前にまず議事録署名人につきまして、私のほうから指名させていただいてよろしいでしょうか。それでは本日の議事録署名につきましては、渡辺委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは議事に移ります。議事（1）仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画中間案についてでございます。前回の会議におきまして、後期</p>

	<p>計画の骨子案についてご協議いただきまして、その後中間素案として作成されたものについて、さらに皆様の意見を集約した上で、今回は中間案としてまとめていただきました。</p> <p>本日の協議ではこの中間案の全体的な構成などについて、ご意見をいただき、また推進の柱に沿った具体的な取り組みについて意見交換を行い、中間案についてご了承いただく流れで進めたいと思います。それではまず中間案について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>健康政策課の小林でございます。皆様には9月下旬に意見照会をさせていただいた際、中間素案として全体像をお示ししました。その後、いただいたご意見を踏まえまして検討し、細かい部分も修正、変更した部分がございます。今日改めてご説明をしたいと思います。資料1をご覧ください。</p> <p>最初のページをおめくりいただき、目次をご覧ください。全体の構成について説明させていただきます。この目次の1から5までの構成は、現計画と同様に引き継いでいく形で入れております。次に6. 後期計画における課題と方向性、7. 基本目標と推進の柱、8. 市民のライフステージごとの取り組み目標としまして、続いて、9. 具体的な取り組み、10. 後期計画推進にあたっての指標、という構成にしまして、中間評価の位置は一番最後としております。</p> <p>内容全体としては後期計画ということでございますので、基本的に変える必要がない部分は現計画を生かす、という形で案をまとめているところです。</p> <p>それでは1ページをご覧ください。こちらは後期計画策定の経緯と趣旨でございます。こちらの8行目のところでございますが、この後期計画につきましては、今後5年間の計画となるという趣旨を記載しております。その下には食育基本法の前文の、食育の定義を掲載しております。2は計画の位置づけですが、後期計画も仙台市総合計画を上位計画として、さまざまな計画と連携しているところを記載をしております。</p> <p>2ページをご覧ください。こちらが一番上に、「地域の農林水産物の利用促進についての計画」としての位置づけということを入れております。</p> <p>こちらは国で、「地域資源を活用した農林業者による新事業の創出及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」という法律で、地方自治体が地域の地産地消の施策の推進を図るための計画を定めることを推奨しておりまして、本市ではこの食育推進計画が国の推奨方針に合致することから、本計画を「促進計画」として位置づけております。次の3・4については現計画を踏襲した形になってございます。</p>

3ページをご覧ください。こちらは推進の基本ということで、推進の視点と主体というところは現計画を踏襲している形になっております。

4ページをご覧ください。こちらは食育の4つの分野についてですが、こちらでも後期計画でも、4つの分野としてお示しをしております。国の第3次食育推進基本計画においては、生産・流通の場の理解や地産地消の推進、食の循環や環境への配慮を一連の分野として位置づけておりますので、この食の循環や環境を意識した取り組みという視点を、生産・流通・消費の分野に加えているところでございます。

5ページは後期計画における課題と方向性ということで、中間評価を受けて見えてきた課題と方向性を記載をしております。前の中間素案では中間評価の後に掲載をしていましたが、今回はこの6番目に盛り込んでおります。

6ページをご覧ください。こちらの基本目標も現計画を引き継ぐという形になっております。基本目標の下のところ、後期計画で力を入れる内容を記載しております。推進の柱でございしますが、後期計画は1つふやした形で、5つの柱としているところでございます。

7ページをご覧ください。市民のライフステージごとの取り組み目標でございします。現計画のものをベースに、後期計画の課題を踏まえて記載をしております。現計画ではライフステージの2番目のところで、「児童期から思春期」としておりましたけれども、わかりやすくするために学齢期という記載に替えております。合わせて本文中の関係する部分の学齢期のところも修正をしております。中間評価でも課題が大きい青年期につきましては、皆様からいただいたご意見を踏まえて、文章を修正しております。

8ページをご覧ください。ここからは具体的な取り組みということで、推進の柱ごとに取り組みの方向性、具体的な取り組み、その主な内容と関係機関を一覧にして記載をしております。推進の柱に続く取り組みの方向性、具体的な取り組みの整理の仕方は、現計画を引き継ぐ形としてございます。

9月の意見照会の際には、後期計画において、来年度以降、新規あるいは拡充をお考えの取り組みについて、さまざまな取り組みを皆様からお寄せいただきました。それらをこの表に盛り込んでございまして、星印としまして、新規・拡充というふうに記載をしております。

皆様からいただいた取り組みの中には、かなり具体的な内容をいただいたものもございましたけれども、5年間の計画ということもありまして、主な内容としてまとめた表現になっていることをご了承いただきたいと思っております。

それでは推進の柱ごとに、簡単に説明をさせていただきたいと思います。①の「食を通じた健康づくりを实践しよう」というところで、中ほどの黒丸です。「市民，特に若い世代が自主的に活動する機会を増やします」ということで、ホームページ・情報誌・イベント・キャンペーンなど、広く市民が食育にふれ、自主的な活動につなげるための取り組みを挙げております。

9ページの真ん中ほどの黒丸、「親子を取り巻く様々な場面をとらえ、情報発信と支援を充実させます」ということで、こちらは乳幼児健診や育児教室、保育所・幼稚園、小中学校でのさまざまな場面で、子どもだけではなく、その親に向けた情報発信と相談支援が挙げられております。またそういった取り組みの中で関係者の資質向上と、ネットワークづくりにも取り組んでいくことが挙げられております。

10ページをご覧ください。真ん中より少し下のところの黒丸です。「大学等関係機関と連携し、若い世代の健康づくりについて積極的に啓発します」のところですが、大学・専門学校などの教育機関と連携し、若い世代に向けて食習慣改善の実践を啓発する取り組みなどを挙げております。

また最後の段になりますが、「働き盛り世代への積極的な啓発と、健康相談の機会を増やします」におきましては、企業や各種団体などと連携をしまして、働く市民の健康づくり、生活習慣病予防のための食生活改善についての情報提供や栄養相談が挙げられております。

11ページでございます。真ん中ほどの黒丸、「健康づくりのための食情報が手に入りやすい環境をつくります」におきましては、健康づくりをテーマとした市民向けのイベントや講演会、また飲食店や生産関係者、関係企業との連携による、食に関する情報の発信が挙げられております。

下のほうの黒丸ですが、「乳幼児からの日々の食育活動を充実させます」におきましては、保育所・保育園・幼稚園等で実施されている、さまざまな食育体験の取り組みが挙げられております。

12ページをご覧ください。「食事づくりなどを体験する場を増やします」におきましては、さまざまな関係機関が連携して、多様な年齢層に向けて実施している体験型の取り組みなどが挙げられております。

次に推進の柱②についてでございます。最初の黒丸のところ、「地域のつながりをベースに、お互いに食文化を伝えあう活動をすすめます」におきましては、保育所・幼稚園などの給食に郷土料理や行事食を取り入れ、子どもたちに伝えるとともに、献立表やおたよりなどで保護者にも伝える取り組みが挙げられております。また地域のお祭りやイベントなどでの情報発信や、地域の食材を活用した講座の開催などが挙げられて

おります。

13 ページに入りまして、推進の柱の③でございます。最初の黒丸の「子供たちの身近な場で地産地消を実践します」については、保育所の給食、学校給食に地場産食材を活用する取り組みが挙げられております。2つ目の黒丸の「仙台市ならではの特徴を活かした生産・流通関係者との交流、体験の場をつくります」ですが、生産・流通関係団体を中心としました、地場産食材についての学習会や体験会、産地見学、農作業体験、地場産食材を使った商品開発など、市民が地産地消の意識を高め、実践する機会をつくる取り組みが挙げられております。

14 ページでございます。推進の柱④になります。今回新たに加えられました推進の柱「環境を意識した食の取り組みをすすめよう」についてでございます。こちらは「食品ロス削減の取り組みを進め、市民の実践につなげます」ということで、食品を無駄なく使うことで、食品ロスや生ごみを減らす実践方法の周知、またフードバンク・フードドライブの取り組み、及びその活動を市民に伝え、一人一人の実践につなげるという取り組みが挙げられてございます。

推進の柱⑤でございます。1つ目の黒丸で「食品の安全性に関する正しい情報を積極的に伝えます」では、食品の安全性に関する正しい情報を市民に広く発信するとともに、食品関係事業者や施設に最新情報を伝え、市民の安全な食環境を確保する取り組みが挙げられております。

次の黒丸の「食品表示の知識を普及し、食品の選択への活用をすすめます」については、食品表示の知識と活用の方法を、市民向けに発信する取り組みが挙げられております。こちらまでが推進の柱ごとの取り組みになっております。

それでは16 ページのところでございますが、「後期計画の推進にあたっての指標」についてでございます。今回新たに加えた指標や変更をいたしましたところについて、説明をしたいと思います。まず一番上のところですね。指標項目の「食育に関心がある人の割合」についてでございます。この目標値につきましては、現計画での中間値と目標値に乖離があることについて、複数のご意見をいただき、庁内のほうでも協議をさせていただきました。

後期計画の指標の考え方につきましては、国の指標の考え方に合わせまして、「食育に関心がある人」に加えまして、「どちらかと言えば関心がある」の合計での指標と今回変更をしたいと考えております。

この目標値の設定につきましては、国の平成21年の現況値71.7%に対する国の目標値90%、こちらの2つの数字の増加率に準じ、仙台市の場合にあてはめまして、目標値を85%以上としてございます。

	<p>また、真ん中よりちょっと下のところにありますが、「適正体重の範囲にある人の割合」というところがございます。この中の「40 から 60 歳代女性の肥満」につきましては、中間評価におきまして、目標値の 15% に達しておりましたので、新しい目標値を 13% 以下と設定をさせていただきました。これは国の現況値 20.5% に対する、健康日本 21 の目標値 19% の割合を仙台市にあてはめて計算をしまして、13% とさせていただいております。</p> <p>また今回新しく加えた指標が 3 つございます。真ん中より下ほどで網かけになっている部分が 3 カ所ございますが、そのうちの 1 つ目「主食・主菜・副菜をそろえた食事をほぼ毎日食べる人の割合」こちらの目標値は、国の現況値 57.7% に対する、第三次食育推進基本計画の目標値 70% の増加率で計算して、55% 以上としてございます。</p> <p>2 つ目が「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を受け継いでいる人の割合」こちらも国の調査項目にもあり、国との比較も可能という指標になってございます。目標値は設定をしないで、増加としてございます。</p> <p>もう 1 つが「食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合」、こちらは今回新しく推進の柱に入れた内容に関する指標でございます。こちらのほうは現況値が既に 92.4% でありましたので、目標値の数字としては設定をしないで、増加としております。</p> <p>それでは次に 18 ページをご覧ください。こちらは仙台市食育推進計画〔第 2 期〕の中間評価になります。このページ以降につきましては、第 1 回のこの会議の際に説明をしておりますので、本日は割愛をさせていただきたいと思っております。説明は以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。では皆様からのご意見ご質問をいただきたいと思っております。ボリュームがありますので、内容を分けて伺ってまいります。まず 1 ページの策定の経緯と趣旨から 7 ページの市民のライフステージごとの取り組み目標まで、何かご意見はございますか。</p> <p>それではちょっと私のほうから、6 ページの推進の柱が 5 つありまして、その隣に具体的な取り組みがございますが、③の地産地消をすすめようの中の具体的な取り組みの黒丸の 3 番目に「自然の恵みや食に関わる人々への感謝の気持ちを育みましょう」とあるんですけども、ここではなくて、むしろ②のほうではないかなと。要するに自然の恵み、食に関わる人々への感謝の気持ちを持つということは、いわゆる食事のマナーにも通じることではないかなと思ひまして、②のほうには入らないかなと思っております。</p> <p>あるいは④にもちょっと入るかなと思うのですが、要するに「いただ</p>

	<p>いたものというのはもったいないですよね」ということなので、「すべてをいただきましょうよ」という意味で、食品廃棄物削減などの部分とも関わるのかなと思っておりました。いかがでございましょうか。</p> <p>「いただきます」「ごちそうさまでした」という言葉の中には、自然の恵みに感謝の思いがあり、そしてつくってくれた人、運んでくれた人、さまざまな方々への感謝の思いがあって、「いただきます」という、私たちの食事の前のあいさつがあり、そしていただいた後は「ごちそうさまでした」という言葉があるわけなので、むしろ②のほうの具体的な部分かなと思うんです。</p>
健康政策課長	<p>実は、前計画では、②のほうに入っておりましたので、②に戻すよう検討したいと思います。</p>
高澤会長	<p>よろしくお願いいいたします。</p>
佐々木委員	<p>今のこの流れの中でこれを②に移した時、この後の部分には特に大きな影響はないなと思います。</p>
高澤会長	<p>それでは渡辺委員お願いいいたします。</p>
渡辺委員	<p>推進の柱の4番目の、「環境を意識した食の取り組みを進めよう」というところで、生ごみの環境利用という文言が出てきているのですが、こちらは環境部局との連携はあるのかどうか。</p> <p>それから市民に対して、生ごみの環境に対する啓発ということを進めるにあたっては、何か広報や、取り組みの具体化などが、行政からは必要かと思うので、それらがあるかどうか、ということを確認させていただきたいと思います。</p>
高澤会長	<p>それでは課長、よろしくお願いいいたします。</p>
健康政策課長	<p>はい、こちらは生ごみ処理の家庭における生ごみ処理の機材利用の啓発というようなこともしております。</p>
渡辺委員	<p>すみません。その家庭での生ごみに対する取り組みというのはわかりますが、それを推進するにあたって、どのような形で取り組むのかについて伺いたいのですが。</p>

<p>廃棄物企画課長</p>	<p>廃棄物企画課の高橋でございます。具体的な施策としては、生ごみを堆肥化する機械を購入した場合の助成の事業ですとか、その生ごみを堆肥化するための講習会を実施しています。</p> <p>他には、生ごみを減らすための情報提供の事業も、後ほどご紹介をさせていただきたいなと思っておりますが、ウェブサイトを立ち上げて、そこで情報提供をしたり、実際に取り組まれている方々の情報提供をしたりして、生ごみを減らすということもですし、その後出来た堆肥の有効利用についても、具体的に啓発していくといった事業に取り組んでいるところでございます。</p>
<p>高澤会長</p>	<p>要するに生ごみをそのまま捨てるのではなくて、土に返して、そこから今度は栽培を行って、また野菜を育てて、その野菜を利用するという、自然循環型の方向に持っていきましょうということですね。はい、じゃ熊谷委員、よろしくをお願いします。</p>
<p>熊谷委員</p>	<p>小中学校の給食の場合、それが既に始まっております。その機械、コンポストの立派なものなのですが、自校給食の学校で、その機械が学校の中にある学校とない学校があるのですが、ある学校では、給食で残った生ごみの水気を切って、機械に入れて、出来るまで結構時間がかかるんですが、最終的には肥料が出来て、それを自校の教材園や畑に利用したり、たくさん出来るので、近所の方が必要な方に渡したりとか、そういった活動をしているところもあります。</p> <p>そういう設備が無い学校は、今自分の学校は無いのですが、生ごみを回収して行った先で、やはり肥料にするような活動をしているということでございます。</p>
<p>高澤会長</p>	<p>ありがとうございました。ほかにございますか。</p>
<p>渡辺委員</p>	<p>前回もご質問させていただいたんですけども、食育サポーターの登録の件でございまして、ベースラインよりも大幅に減少しているというのが、指標でわかったのですが、この減少にあたって、この食育サポーターをこの計画の中に、どのように盛り込むかというのが今回見えてこなかったんで、そこをどうするかお考えをお聞かせ願いたいと思います。</p>
<p>高澤会長</p>	<p>それでは課長、よろしく願いいたします。</p>
<p>健康政策課長</p>	<p>はい、食育サポーターの登録は今、随時受け付けている状況で取り組んでいるところですが、既に地域で活動をされていても、登録するところまでたどり着いていないということもあるかと思っております、この辺も含めて、PRなどを積極的に進めていきたいと考えているところでございます。</p> <p>食育の活動が定着するにつけ、わざわざ登録しなくてもというような</p>

	<p>雰囲気もあるかと思しますので、皆様の活動を目に見える形にすることでは、登録についてもっとお声がけができるといいのかなと思っております。</p>
渡辺委員	<p>この食育サポーターという事業が、全くこの食育推進計画の中に載っていない、指標はちゃんと出しているということで、どのようなスタンスで、食育サポーターが実際に活動されているのか。その辺がこの計画には見えてこない、わからないので、その辺を盛り込んだほうがいいのではないかなと思うんですね。</p> <p>盛り込まずに、指標を追いかけるといのはどうなのかなと思ったので、それは意見として申し上げたいのと、また食育というものはやはり、それぞれの市民の考え方がすごくあると思うので、行政がやったり、企業がやったり、学校がやったりというものではなく、やはりそれぞれが感じ取って、食の大切さというのを追及していくというのが大事だと思うので、やはり食育サポーターが地域の中で根差した活動を広げるというのは、とても大事なことだと思うんですね。</p> <p>ですのでサポーターのこの位置づけというか、それを明確にするということが必要ではないかと、私は考えます。</p>
健康政策課長	<p>ありがとうございます。検討してみたいと思います。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。その食育サポーターは渡辺委員がご存じのところ、どのような形で動いていらっしゃるでしょうか。</p>
渡辺委員	<p>私自身もわからないのです。指標のベースラインに載っていて、その減少の数値が出ているので、それをどう事務局のほうで捉えて、今後どのようにしていくかというのが、私自身もわからなかったもので、それをお伺いしました。</p>
高澤会長	<p>そうですね。やはり何らかの形で、食育サポーターというのを全面的に出さないとわからない、というところがありますので、登録の形であるとか、何らかの呼びかけをするという取り組みを是非していただくとありがたいと思います。そのほかご意見、ご質問ございませんか。</p> <p>小島委員お願いします。</p>
小島委員	<p>「推進にあたっての指標」のところでもいつも気になっていたのが、学校給食の地場産物利用品目数の割合が、ベースラインよりも中間評価で減っていて、今回目標値は増加と書いてあるのですが。</p> <p>だいぶ前の話ですが、荒巻給食センターに伺った時、中国産の野菜が入っているというお話だったと思います。仙台市として地産地消を進めるというふうに目標値を立てているのに、給食がこのような数値なのはどうなのかなと思います。例えば予算をつけるというふうにしなないと、私は増加しないと思うのですけれども、そのあたり、具体的なことが実</p>

	<p>際あるのかどうか、伺いたいと思いました。</p>
高澤会長	<p>後期計画の推進にあたっての指標のほうに飛んでしまいましたが。やはり子どもたちの食というのは非常に重要なところがございますから、安心安全な食材を使用するというは、非常に重要なわけですが、事務局からご回答よろしく願いいたします。</p>
健康教育課 給食運営係長	<p>教育局健康教育課の金田と申します。学校給食で使用する食材ですが、野菜につきましては仙台市の給食独自の規格をつくっており、国産品を使用するとしておりまして、外国産のものは、今現在も過去も使用していない状況でございます。</p> <p>また地場産品の使用ということで、単独調理校などでは各地域の農家でつくっている野菜を持って来てもらって使用したりであるとか、またその農家さんに実際に学校に来ていただいて、その生産者の苦労とか思いとか、そういったことを話していただくというような工夫もしているところでございます。</p> <p>なかなか野菜につきましては、どうしても旬などもありますので、すべて仙台市産、宮城県産を使うというのは難しいところですが、できる限り増やすことができるよう、今現在は取り組んでいるところでございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。小島委員、よろしいですか。</p>
小島委員	<p>取り組んでいらっしゃるけれどもこの数字、というところが今後どうなさるのであるかということだと思っておりますが、結局、最初の基本目標とも全部そこがかみ合ってきて、学校給食自体がとても仙台市として食育推進の柱を出しやすいところなので、尚のこと、この数値をできるだけ増加するようにしていただきたいと思っております。</p>
保健衛生部長	<p>ちょっと補足いたします。おっしゃるのはそのとおりですけれども、予算の問題というよりは、地場というローカルな問題で、収量が限られるため、給食センターの大量のものに旬のものを使うということはなかなか難しいところです。単独調理校で、極力地元のものを使用することに努めていくということで、指標もなかなか大きいパーセンテージというのは上げられず、少しでも増やしていくという意味で、「増加」とし、目標に掲げさせていただいているところでございますので、できる限り伸ばしていくように、教育委員会ともども頑張っていきたいと思っております。</p>
高澤会長	<p>ぜひよろしく願いいたします。それでは8ページの具体的な取り組みから、先ほどお話がありました16ページの後期計画の推進にあたっての指標について、ほかにご意見がございましたらお願いします。</p> <p>具体的な取り組みについては、9月に事務局から皆様に意見照会をした際に、後期計画において拡充予定の取り組み、また新規の取り組みと</p>

	<p>して、出していただいた内容が盛り込まれていますが、特に先ほどお話もございました16ページの推進にあたっての指標に新しく加えた3つの指標にも注目していただき、今後広げていくべきもの、またどうすれば取り組みを広げることができるか、などアイデアのレベルでも結構でございますので、お話しいただきたいと思います。</p> <p>先ほど、学校給食の地場産ものの、利用品目数の割合のパーセンテージの増加ということで、できるだけこの部分は力を入れていただきたい、というご意見がございましたが、そのほか取り組み等につきまして、何かございましたら、ご意見を賜りたいと思います。</p> <p>それでは16ページの新規の、「主食・主菜・副菜を揃えた食事をほぼ毎日食べる人の割合」という部分から入りたいと思います。この指標はバランスのいい食事の実践として、具体的な内容を入れたということですが、この分野は今までもさまざまな場面で取り組まれてきたところでございます。さらに市民の皆さんに実践をしてもらうための働きかけとして、広げられるとよい取り組み、また新たな対象などございますか。それでは佐々木委員、よろしく願いいたします。</p>
佐々木委員	<p>それでは私のほうからお話ししたいと思います。各区役所にごきます区保健福祉センターでは、妊産婦や乳幼児の保護者の方を対象にしまして、各種の講座を開催しております。また幼児健診等の場でバランスのよい食事の実践について、啓発の取り組みを行っているところでございます。</p> <p>親になる前の年代の方々としましては、今後学生をはじめとした若い世代の働きかけ、これが重要と考えておりますので、新しい計画の中で、こういった若い世代に向けた啓発の取り組みを充実していきたいと考えてございます。</p>
高澤会長	<p>佐々木委員、よろしかったらもうちょっと具体的な部分、お話しただけるとありがたいと思います。</p>
佐々木委員	<p>細かな部分は、家庭健康課長のほうからお願いいたします。</p>
泉区家庭健康課長	<p>泉区家庭健康課の庄子でございます。ただいまお話にありました、各区保健福祉センターの取り組みといたしましては、妊娠中から就学時前までのお子さんたちの健診とか健康教育、健康教室等では必ず栄養士等が講話をしており、その中でバランスのよい食事について指導をさせていただいております。</p> <p>また若い世代への取り組みといたしまして、先週もあったのですが、大学さんの文化祭に行って、食育のブースを設けて啓発しております。泉区の場合ですと2つの大学に行きまして、学生さんと一緒に活動しておりますし、あと実習指導にも学生さんがいらっしゃいますので、その</p>

	<p>際にもいろいろな場面を活用していただき、認識していただいております。以上でございます。</p>
<p>高澤会長</p>	<p>ありがとうございました。そのほかございますか。それでは2つ目の新規の「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を受け継いでいる人の割合」というところでございます。</p> <p>この指標に対する具体的な取り組みとしては、12ページの推進の柱②になりますが、現実的には難しい部分でもございます。今後、推進するにあたってアイデアなどございますか。</p> <p>特に地域と言いますと、この辺については食生活改善推進員協議会の相澤委員からご意見を賜りたいなと思っていただいておりますが、今回はご欠席でございますので、いつかご意見をいただければと思っております。</p> <p>では、私のほうからお話を申し上げます。地域の郷土料理といたしまして、3～4年ぐらい前に宮城県の家庭料理ということで、聴き取り調査をさせていただきました。これは日本調理科学会という学会がございまして、宮城県を8区分し、学会員がそれぞれの地域で聴き取りをさせていただきました。対象者は大体60～70歳代の方々でございまして、「1970年ごろに食べられていた料理はどんな料理でしたか」とか、「おやつはどんなものでしたか」とか、「その料理に対しての思い出はどんなものでしたか」という形で聴き取りをさせていただいたんですね。</p> <p>今とは全く違いまして、昔ですから本当に捨てるようなものも「もったいない」と言って、例えばお仏壇に上がったようなお食事、それを下げて、ご飯であるならば、「乾燥させて、それを揚げて食べたんですよ」とかですね。</p> <p>とにかく捨てるものがほとんどなかったということが、非常に印象に残っております。実はその聴き取り調査した料理に関しましては、レシピを起こしまして、今年の11月から農文協の『うかたま』という雑誌の別冊版で、全国的な郷土料理としまして、全16巻がシリーズで発刊されることになりました。</p> <p>全国版ですので、今年11月のテーマは「寿司」ですが、宮城県はどちらかと言うと寿司がなかなか出てこなかったもので、11月の発刊には宮城県のものはないのですが、来年2月に関しましては、魚の料理ということで発刊される予定であります。一応ご紹介まででございます。</p> <p>こういった何らかの形で、次世代の方たちに昔ながらの郷土料理って、こんなふうにして食べられていたんですよということを、伝えられればいいかなと思っております。次に、幼稚園や小学校などでも郷土料理を取り入れているということでございますけれども、もし幼稚園・保育所</p>

	<p>でそういった郷土料理の取り組みがございましたら、小島委員、よろしくをお願いします。</p>
小島委員	<p>私立幼稚園連合会として来ておりますが、我が園の取り組みということでよろしければ。我が園の給食はとにかく郷土のもの、本当に地産地消を目指しています。月に3回郷土汁の日というのをつくっていて、そのときは保護者が手伝いに来て、おくずかけとか、会津のこづゆとか、秋田のきりたんぼの時もありますし、そのように郷土のものをつくるようにして、お母さんたちもお家に戻って、おくずかけいっぱい刻まなきゃいけないから大変なんですけれど、これなら本当につくれますと思ってくださるような日を設けています。</p> <p>また、河北新報社から以前に出た「ごっつおうさん」という、宮城の郷土料理の本を参考にしながら、夏はナスばかりとか、キュウリばかりみたいなことにはなるんですけども、子どもたちの栄養バランスも考えながら、とにかくなるべくそういったものに近づけていこうとしています。</p> <p>我が園の保護者は、宮城県出身の人は多分1割くらいではないかというくらい転勤の方が多いです。でも逆にその方たちが喜んでやってくれますので、非常にいい取り組みだなと思っております。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。宮城県の郷土料理に限らず、福島県・秋田県のものも取り入れているということでございますね。小学校のほうではいかがでございましょうか。熊谷委員、よろしくをお願いします。</p>
熊谷委員	<p>小学校でも献立を工夫しながら、郷土料理であったり、日本の伝統的な行事に対応する献立を作成して、子どもたちに味わってもらって、その味を守ってもらいたいということで、馴染みのないものも出してみようということをやっております。</p> <p>今お赤飯を食べなくなってきておりまして、この間、開校記念日ということで、お赤飯を給食の献立に出したのですが、やはりなかなか馴染みがない感じの感想が寄せられたということで、家庭で普段お祝い事があってもお赤飯を炊くということはなくなってきているのかなと。</p> <p>お月見であれば、お月見に合わせた献立とか、これから冬至になると冬至かぼちゃんなんですが、子どもたちには小豆離れもあって、あまり喜ばない状態が見られるとか。郷土のものであればずんだ餅とかですね、本校は自校給食なので割とそういった手がかかるものも何とか対応できて、取り入れるようにしているんです。</p> <p>また、全体で情報を共有しようということで、それぞれの学校で工夫した献立、栄養士、栄養教諭が頑張っていて、いろいろ調べてやってみた情報を持ち寄り、仙台市内の学校に広めようという活動を毎年やっております。</p>

	<p>ます。仙台市学校給食会というところで、献立検討委員会というのを設けてまして、郷土料理とか行事食というテーマを設けて、試作をし、実際に食べてみて、そのレシピを冊子にまとめて、年に1回年末に発行しております。</p> <p>そういった工夫などを通して、少しでも広めたいなと思っています。馴染みのないものでも、給食で何回か食べるということを通して、味を知ってもらい、「今日こういうのが出たよ」と家庭でも話題にってもらって、給食のおたよりにそのレシピなども載せる。すると家庭に広がって、給食で食べたものを家庭でもつくって食べてみるということから、「そう言えばおじいちゃん、おばあちゃんと一緒の家庭だとかこういうのを食べていたんだね」というような話題から、伝統の食文化を守っていこうという動きになればいいなと思っています。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。そのほか委員の皆様から、取り組みについてごさいませんか。齋藤委員、よろしくお願いします。</p>
齋藤委員	<p>取り組みではないのですが、12 ページの一番下のところの文言について伺います。和食の地域や郷土料理に関する学生の認知状況を把握、とあるところの、和食の地域という意味をお伺いしたいのですが。新規となっているところで、学生さんへの認知状況の把握や情報発信というのは本当に重要だなと思っていたところですが。</p>
健康政策課長	<p>すみません。こちらは誤植でございました。「和食の知識や」に訂正をお願いします。</p>
齋藤委員	<p>そうですか。承知いたしました。ありがとうございます。</p>
高澤会長	<p>では、渡辺委員お願いします。</p>
渡辺委員	<p>14 ページの、推進の柱④のフードバンクのところについて、前回の推進会議で、フードバンクの取り組みをご報告させていただいたのですが、新規のところ、市民向け環境関連イベントでの未使用食品の回収によるフードバンク支援というのは、具体化した取り組みなのかということをお伺いしたいと思います。</p> <p>フードバンクの東北 AGAIN と、コープフードバンクが記載されておりますけれども、コープフードバンクの取り組みは、お取引先の食品企業様からの余剰食品の無償提供と、社会福祉組織への無償提供ということで、限られているのです。提供者が限られているものですから、ここに記載されるとちょっと誤解を招くということなのですが、このあたりの新規の動きがあったら、ちょっと教えていただきたいと思います。</p>
高澤会長	<p>環境局さんのほうですね。よろしくお願いします。</p>
廃棄物企画課長	<p>廃棄物企画課高橋でございます。これについては今年度から実際やっております、9月初めにエコフェスタという、環境に関するイベント</p>

	<p>をやりまして、このときは AGAIN さんと一緒に市民の方に呼びかけて、お家に眠っている食品があれば、どうぞお持ちよりくださいとお声がけしました。</p> <p>大体 100 キロを超えるような食品が集まりまして、AGAIN さんのほうで有効にご活用いただいたということでございます。また、1月に資源ナレーという、捨てるゴミになるようなものを使って、市民と一緒にワークショップをやりながらアート作品をつくって展示しようという、アートフェスティバルと言いますか、お祭りをやるんですけれども、その中でもやってみようかというような話をしているところでございます。</p> <p>まずは、市民の方にそういう呼びかけをして、家に眠っている食材をそのまま捨てるのではなくて、活用できるフードバンクさんのような活動があるんですよということを、お知らせしたいと考えております。</p>
高澤会長	渡辺委員よろしいでしょうか。
渡辺委員	取り組みはわかりました。ただ、ここに関係機関ということで、AGAIN さんとコープフードバンクが載っているんですけれども。コープフードバンクは市民向けの食品の回収というのはしていないので、記述の仕方をちょっと変えていただきたいのです。企業として限定した取り組みになっているものですから、よろしくお願ひしたいと思ひます。
健康政策課長	この辺は改めてご相談させていただきたいと思ひます。
高澤会長	ありがとうございました。それではそのほかご意見がなければ次に進みたいと思ひます。今もお話にございましたが、食品ロス削減のための取り組みということで、3つ目の新規の指標に「食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合」とございます。ここに対応する具体的な取り組みの中で、仙台市のレシピ投稿サイト「モッタイナイキッチン」というのは、どのような事業なのか、具体的にご紹介いただけますでしょうか。よろしくお願ひいたします。
廃棄物企画課長	<p>廃棄物企画課高橋でございます。本日お手元に色刷りの資料をお渡ししていると思ひますので、そちらをご覧くださいと思ひます。資料にレシピ投稿サイトとございますけれども、捨てる部分を減らすような知恵が盛り込まれた料理レシピを、市民の皆様から投稿していただくことで、ごみとして捨てることを少しでも減らすことに関心を向けていただくことが大きな柱になってございます。</p> <p>チラシのほうにも、「食への愛で『捨てる』を減らす」というふうにございますとおり、単なるレシピ投稿サイトではなくて、食材をつくってくださっている生産者の方をご紹介したり、生ごみ削減に役立つような、例えば堆肥作りに取り組んでいる方の情報を提供したりとか。</p>

	<p>またレシピで言えば地元の料理研究家や、食品ロスに取り組んでいる在仙の飲食店の方のレシピをご紹介するなど、そういった食に関するさまざまな分野で活動する市民の皆さんのお力をお借りして、市民協働で食に対する愛情を深めて、食品ロスの削減につなげていこうという取り組みでございます。</p> <p>まずはウェブサイトのほうを委員の皆様にもご覧いただいて、レシピ投稿もぜひお願いしたいと思っております。さらに委員の皆様に関係する方々にも、ぜひ広めていただいて、食育に関する情報のリンクですとか、先ほども給食の取り組みがご紹介されていましたが、そういったものをご紹介したりということもできるのかなというふうに考えてございますので、そういった総合的な情報提供の場として育てていきたいなというふうに考えておりますので、ぜひご協力をよろしく申し上げます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。ブロッコリーの芯なんかも非常に固いんですけども、ブロッコリーの芯をミキサーにかけて、スープにするとか、それからしいたけの軸なんかも捨てられがちなんですけど、それも刻んでスープにするとかですね。</p> <p>実はこの間、実習の中ではらこ飯をつくりました。鮭の皮を外しちゃうわけですね。皮は捨てられるところだったんですが、その皮を回収し、塩コショウして、オープン焼きするとカラカラに焼けて、酒のつまみには持ってこいというものでございます。それからエビの殻なんかも唐揚げにすると、非常にパリパリとおいしくいただけます。</p> <p>そんな形で食べられるものは捨てずに利用しましょうということで、モットイナイキッチンをご紹介いただきました。そのほか皆さんのほうからございましたら。齋藤委員、よろしく申し上げます。</p>
齋藤委員	<p>先ほどご紹介があった2017エコフェスタのほうはご案内をいただきまして、私、早速出掛けまして、本当に市民の方々が盛り上がっていました。先ほどのフードバンクもたくさん集まったということでしたけれども、そこにも人だかりがすごくできてまして、実際この場で本当にお話しさせていただきたいなと思うくらい。</p> <p>だから、行政の方々が一步踏み出すと、これだけその市民の方々に訴えるものがあるのだなと。そしてモットイナイキッチンのように、いろいろなレシピを紹介したり、こんなふうに見えるんですよっていうところもやっぱり人だかりなんですよね。</p> <p>皆さん、本当に意識が高いし、何かまた持ち帰って、家でもやってみようと言っているお子さん連れの方々もいらしたり。だからどれほどこういうことで一步、そしてこの推進の柱を新しく一本つくったっていう</p>

	<p>だけでも、どれほどの大きな効果があるのかということ、私は出かけさせていただいて、一市民として見ることができました。これは本当にこの場でお伝えしたいし、だから継続して取り組んでいただければ、一番ありがたいなと思いました。</p> <p>先ほど会長から冒頭にご指摘のあった、食材への感謝、自然の恵みへの感謝という気持ちのところは、こちらにも関わってくるのかと。自然の恵みとか、それに感謝していただくという気持ち、モッタイナイであるとか、大事にしよう、フードバンクに持っていきようという気持ちも、やはりそういうものはすべて、その感謝の気持ちがないと進まない、ベースのところにはそれが必要なのかなと思うと、こちらにも関わってくるのかなと思います。それから地産地消であっても、地元のものに対する理解や感謝であるとか。この一文っていうのは、本当に大きな一文だなというふうに思いますので、推進の柱の④のほうにも、自然の恵みへの感謝というものを、生かすことはできないかなというふうに思っておりますので、ご意見申し上げたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。またこちらのほうはご検討いただきたいと思っております。亀山委員、いかがでしょうか。</p>
亀山委員	<p>はい、私もこのモッタイナイキッチンには市政だよりでまず見ました。また、車を運転している時ラジオを聞いていたら、環境局の方がPRしているのを聞いて、インスタともコラボしているのだなと思いました。</p> <p>小宮山さんのレシピを入れるとか、若い人が食いつきやすいようなやり方をしているのはすごくいいなと思いました。それとともに今回、PRを拡充していくとか、新規のものがいろいろ入っていて、こういったものもきっと新しいやり方を入れていくことと思いますが、今回このモッタイナイキッチンは新しくピックアップされて、大々的にやっつけらっしゃるなと思います。</p> <p>今までのお子さん向けのものでしたとか、働き盛りの人へのPRっていうのも、キャッチーなというか、目に見えて何か、今月はこれとか、もしくは毎月は無理にしても、何か力を入れたもの、今までどおりでただ数をふやすとかいうのではなく、何か新しいものとのコラボなどでやっつけていくといいのかなと思いました。</p> <p>若者向けでは、食だけではなくて、アートとコラボとか、ライブとコラボというのは、民間がやっているから、行政までというのはもしかしたらあるのかもしれませんが、新しく取り組みとしてやっていただけるといいと思っていた矢先に、先ほどフードバンクが今度アートの方とコラボするというのを聞きました。ホームページで掲載されて見に来る人</p>

	<p>というのは、多分PRしなくても自分で情報を得てくださる方だと思うので、そうじゃない人にどう自主的に関わってもらえるかというところでは、見せ方の工夫も必要かなと思っていました。ですので今回のモットー「ダイキッチン」の手法はすごくいいなと感じておりました。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。ほかにご意見ご質問ございませんでしょうか。それでは本日いただきましたご意見を反映した上で、後期計画中間案として公表し、市民の皆様から広く意見をお寄せいただくという運びになります。そのパブリックコメントの日程につきまして、事務局からご説明をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。</p>
健康政策課長	<p>それでは、資料2、仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画中間案概要版をご覧ください。こちらの4ページ中段のところに記載をしておりますが、この中間案について市民の皆様から広くご意見をいただくパブリックコメントを、11月24日から12月22日までの期間、実施する予定としております。</p> <p>こちらの資料2の概要版と、この中間案の本冊を仙台市のホームページにアップするほか、市役所本庁舎1階の市民のへや、区役所案内窓口、総合支所、市民センターなどで配布する予定でございます。</p> <p>今日いただいたご意見ですとか、パブリックコメントでいただいたご意見を基に、さらなる検討を行い、最終案を作成したいと考えてございます。</p>
高澤会長	<p>はい、ありがとうございました。それでは議事の(2)その他でございますが、委員の皆様、あるいは事務局から何かございますか。</p> <p>では事務局のほうからお願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>はい、ではこの後の後期計画の策定スケジュールについてお伝えいたします。先ほどお話ししましたパブリックコメントを経まして、修正を加えたものについて、2月の第3回食育推進会議にて委員の皆様からまたご意見をいただき、最終案としたいと思っております。その後、3月に決定、公表という流れでございます。</p> <p>またこの第3回の食育推進会議については2月の下旬というふうに考えてございます。またご案内をお送りしますので、よろしくお願いたします。</p>
高澤会長	<p>はい、ありがとうございました。ほかにごございませんでしょうか。ないようでございますので、以上で議事を終了させていただきます。皆様からさまざまなご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。では事務局に進行を引き継ぎたいと思っております。</p>
進行	<p>ありがとうございました。以上をもちまして、平成29年度第2回仙台市食育推進会議を閉会いたします。活発なご議論ありがとうございました。</p>

	た。
	—了—

平成 29年 月 日

署名委員